

めざす児童生徒像

よく考え工夫する子(思索)【主体的に学ぶ力 探究する力 表現する力】
 たくましい心と体の子(剛健)【挑戦する意欲 粘り強く取り組む力 健康を管理する力】
 思いやりの心で協力し合う子(誠実)【対話する力 協働する力 自他の良さを認める力】

※児童生徒結果-教員結果・保護者結果

項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
			教員	児童生徒	保護者			
(学校重点項目) 木場の校風づくり	各項目90%以上の達成率にする	① 児童は自分を高めようと意欲を持って粘り強く努力している。						
		② 児童は周囲に対して思いやりの心で接し、互いの良さを認め合っている。						
		集計						

項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
			教員	児童生徒	保護者			
業務の改善 働き方	各項目90%以上の達成率にする	① 時間外勤務の削減に取り組み、80時間越えゼロとなっている。						
		② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫をしながら業務改善に取り組んでいる。						
		集計						

項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
			教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、具体的な取組を共通実践している。						
		② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。						
		①の達成率を中間95%以上、年度末100%にする。						
		集計						
	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
		② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、 新たな考えに気づいたり することができている。						
		③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
		④ 児童生徒は、学習した内容について、 分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。						
		⑤ 児童生徒は、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、友達と考えを共有したり 比べたりすることができている。						
	①②③の項目での肯定的な回答が、中間85%以上、年度末90%以上にする。							
学力の向上	カリキュラム・マネジメント	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。						
		② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。						
		③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。						
		④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)						
		集計						
学力向上	学習方法	① 児童生徒は、 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。						
		② 児童生徒は、 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができている。						
		①児童の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。」を85%以上にする。						
		集計						

令和8年度小松市立木場小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導・ 教育相談	思いやりの心で協力し合う子を育てるための積極的な生徒指導		
	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人と接し、人間関係力やコミュニケーション力を向上させるために、児童会活動を中心に、様々な活動を計画・実施、振り返りを行うことで、児童の主体性や自主性を育む。 ・教職員の日常的な児童の情報交換はもちろん、年2回の木場っ子アンケートを基に、担任と児童が面談する場を設定し、問題行動等の早期発見・未然防止を図り、より深い児童理解を行う。 		
特別支援教育	児童一人ひとりの発達課題に応じた教育支援体制の充実		
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする児童について、発達の課題を把握し情報共有するため個別の支援シートを作成する。 ・校内委員会を適宜開催し、児童理解の会などで教職員全員で共有した支援方法で支援にあたる。 ・外部機関との連携を図り、必要な時は専門相談員などを招聘して児童の特性や効果的な支援方法などについて助言を受ける。 		
道徳教育	道徳教育を中心とした教育活動全般の充実を図る		
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に道徳の授業づくり等の情報を発信・共有することで教員の道徳教育の充実を図る。 ・重点項目の取組を他教科や活動と関連付けられるよう、カリキュラムマップを意識した道徳教育の推進を図る。 ・家庭、地域と連携した道徳を推進していくために年に1回授業参観で道徳の授業を公開する。 		
読書教育	図書の実充を図り、児童の読書意欲を高める		
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の計画をもとに図書室を利用したり、教科にあった本や「本のとびら」の貸し出しを行ったりすることで、児童の読書の幅を広げる。 ・図書委員が主体となり、計画的にイベントを行うことで、図書室利用の促進を図ったりさまざまな本のよさを広めたりする。 ・図書ボランティアと連携し、より豊かな読書経験の機会を与える。 		
保健健康教育	自己の健康と安全（命）を管理する能力の育成		
	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠と食育について各学年、学期に1回以上学習し、「生活チェックカード」の取り組みにつなげられるようにする。 ・「生命（いのち）の安全教育」に関連付け、性に関する指導を各学年1回以上行う。 ・学校保健委員会を開催し、家庭と学校の連携を高めていく。 		
体力向上	年間を通じた体力向上の取組の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ・体力アップ1校1プランをもとに児童の健康安全に資する活動を行い、児童の体力向上に努める。 ・「木場っ子トレーニング」として短時間でできる体幹トレーニングを継続的に行い、児童の姿勢維持や体力、集中力の向上を図る。 ・各学期に「スポチャレいしかわ」の強化週間を設け、意欲を高めるとともに、運動習慣の定着と体力の向上を図る。 ・体力テストや持久走大会へ向けての練習等において、全校共通の学習カードを活用して取り組み状況を明確にし、成果が見える形にする。 		
情報教育	ICT端末の効果的な活用を図る		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT端末の効果的な活用を模索し、職員間での情報の共有を図るための研修を充実させる。 ・児童がICT端末を日常的に使えるような環境整備を行い、学年の実態に応じた情報活用スキル習得を図る。 ・情報モラル教育の職員研修やデジタルコンテンツを充実させ、児童への確かな情報モラルの習得を図る。 		
家庭の連携・地域社会と	地域・家庭に開かれた学校づくり		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境や人材を活用した学習活動の実践を推進し、深まりや広がりのある学校教育活動を実践する。 ・地域、家庭と連携し、学校教育活動（学習・安全・健康）に協力体制を構築する。特に家庭とは児童の学習活動への理解と協力が深まるような取組を工夫する。 ・HP、通信などで地域・家庭に教育活動の情報発信を丁寧に行う。 		

学校関係者評価	
---------	--